

二八九一番

あらたまの 年の緒長く かく恋ひば まこと我
が命 全からめやも

二八九二番

思ひ遣る すべのたどきも 我はなし 逢はずて
まねく 月の経ぬれば

二八九三番

朝去にて 夕は来ます 君故に ゆゆしくも我
は 嘆きつるかも

二八九四番

聞きしより 物を思へば 我が胸は 割れて碎け
て 利心もなし